

余市文化協会の紹介 ～文化の力で町を元気に！～

余市文化協会は昭和52年に設立され、平成29年には創立40周年の記念事業を実施しました。現在は32団体650名の会員が所属し、町民の文化向上と普及発展に寄与することを目的として幅広く活動しています。主たる事業として、文化賞贈呈式・交流会開催、文化祭共催、余市文芸発刊、加盟団体助成等を行っています。

【余市文化協会加盟団体一覧】

令和2年7月現在

No	活動分野・内容	団体名	代表者	設立
1	郷土歴史研究	余市郷土研究会	駒木根 恵蔵	昭和8年
2	絵画(油彩)	余市美術協会	横山 恭子	昭和23年
3	日本舞踊・歌謡	余市芸能文化研究会	児玉 康則	昭和38年
4	囲碁	余市囲碁同好会	高瀬 昇	昭和45年
5	写真	余市写友会	市川 靖雄	昭和47年
6	俳句	よいち俳句会	横村 昭	昭和48年
7	詩吟	小樽しりべし岳風会余市支部	大野 哲嗣	昭和48年
8	和太鼓	北海ソーラン太鼓保存会	玉川 義美	昭和50年
9	民謡	余市民謡日の出会	穴戸 仙章	昭和50年
10	川柳	余市川柳会	三浦 雅之	昭和50年
11	カラオケ	余市カラオケ連合会	相内 憲治	昭和56年
12	鑑賞例会他	よいち子ども劇場	大塚 真理子	昭和58年
13	合唱	余市混声合唱団	鈴木 史郎	昭和60年
14	書道	余市書道協会	古川 義一	昭和61年
15	河川環境整備他	川は心のシンフォニーの会	押切 孝作	平成6年
16	バグパイプ演奏	余市パイピングソサエティ	新谷 邦夫	平成2年
17	写真	北海道写真協会余市支部	一戸 弘利	平成9年
18	絵画(油彩)	アトリエ磨乃會	穂井田日出磨	平成10年
19	大正琴	大正琴サークル琴友会	山口 路子	平成3年
20	エッセイ	余市エッセイサークル	今野 英理子	平成11年
21	麻雀	余市麻雀連盟	坂本 利郎	平成7年
22	室内管弦楽	余市室内楽協会	牧野 時夫	平成元年
23	民踊	余市ふるさと民踊会	渡部 節	平成10年
24	菊花栽培	余市菊花同好会	葦本 紘治	昭和36年
25	自然観察	余市自然散策愛好会	中村 昇	平成17年
26	フラダンス	ハイビスカス余市フラサークル	川内 章子	平成17年
27	フラダンス	プルメリア余市フラサークル	木村 亜希子	平成23年
28	絵画(水彩)	星のパレット	久保田 和枝	平成13年
29	声楽	グランパ	藤田 繁	平成26年
30	雅楽	余市雅楽会	大竹 直也	平成25年
31	日本舞踊	日舞サークル	高山 悦子	平成27年
32	合唱	黒川女声コーラス	板谷 知子	令和元年

◆問い合わせ 余市文化協会事務局(中央公民館 ☎23-5001)



町指定文化財有形文化財 絵画
「アイヌ絵(武者のぼり下絵)」
昭和54年3月30日指定
余市町入船町10番地

II 余市町指定文化財の紹介 II
アイヌと武者が描かれた長く大きな幟絵が旧下ヨイチ運上家内部に掲げられています。運上家内部の天井から床まで届くこの幟絵は約5.5mの長さで、端午の節句に掲げる五月幟のようなかたちをしています。棹を通す輪はなく裏打ちされた掛軸のように吊り下げられています。このアイヌ絵は、源義経が北海道に渡りアイヌの娘と恋をしたという伝説の一場面が描かれているといわれています。中央に立った義経は右手に扇を持ち、もう片方に持つ弓にはアイヌ男性がしがみつき、つるを引こうと懸命に力を入れています。弓がびくともしない程の強弓のようです。その下方には踊りの手振りをするアイヌ男性、赤子を抱くアイヌ女性、楽器を弾くアイヌ男性などが描かれています。
義経が豪弓の使い手だったかは疑問がのこります。弓を持つ姿は義経の叔父にあたる剛勇無双をうたわれた源為朝のものとよく似ています。
作者は幕末に活躍した早坂文嶺という松前藩お抱えの絵師で、その作品はアイヌ絵を始め、人物画、武者絵、風景画など多彩で、所在が確認されているのは30点余、道内各地や東北、遠くはアメリカ合衆国やドイツ連邦共和国などの個人あるいは博物館が所蔵しています。仏画に優れた絵師という評価を受けていますが、作品には「アイヌ絵」が多く残され、幾つかの武者図やアイヌ絵には「二司馬」という落款が残されています。「二司馬」とは「ニシバ」というアイヌ語に漢字をあてたもので、「財力を持った人格者、貴人」といった意味を持ちます。